

ゆつくり休んでいきなせや

ゆつくり ゆつくり ゆつくり 歩
やすらぎの里 伊予路の奥の風の中
ゆつくり休んでいきなせや
ありがとうの心をもてば 人にやさしく
できます 人とも仲良くできます
ありがとうの心をもてば 新しい発見
や出逢いがあって幸せになります

これは、先ごろ完成した「おへんろさん休憩所」に書かれている言葉です。この言葉は、歩き遍路さんに対する気持ちでもあり、旧へんろ道復元にかける、てんやわんや王国会員それぞれの進むべき方向性と思いを示した言葉です。

一度お立ち寄り下さい。おへんろさん休憩所



四国へんろ道は、四国四県にある弘法大師ゆかりの八十八箇所を巡る所寺院を巡る全長1,400kmに及ぶ壮大なものです。遍路人口は、年間約10万人、15万人。そのうち「歩き遍路」は、約1,000、2,000人と

地域を結ぶ
へんろ文化

てんやわんや王国副大統領
清家 明



言われ、これが増える傾向にあります。その「歩き遍路」にとって一番評判の悪い宇和島ルート。ここを安心して歩いていただく為、宇和島市津島町の松尾峠旧へんろ道（松尾トンネル入口、柿の木）3.7kmの復元に取り組む王国の姿を紹介させていただきます。

旧へんろ道復元はロコミ

平成18年5月20日のてんやわんや国会

（総会）において、森田大蔵大臣から提案があり、一度有志で調査してみることとなりました。

6月1日、地元の詳しい

い人らの案内で調査した結果、少し手を加えればすばらしい遍路道に復元できる。やろうや」ということになりました。

ここからが小笠原大統領の番です、経営する喫茶「磯」で広報活動が始まり、旧へんろ道の話は関係団体がロコミで知る所と成りました。さあ、へんろ道復元作業のはじまりです。

10月9日には、世界遺産化の会からも小山田代表を始め、白石高啓さん、へんろ小屋をつくる会の山下正樹さんや愛南町の寿川忠夫さん、大森寿人さんらも遠路駆けつけていただき、総勢20余名が参加し、道を塞いでいた不法投棄物や生い茂る草木を取り除きました。11月23日には、石橋宇和島市長（国王）、赤松市議会議長を始め地元団体にも参加し、総勢50余名。途中あいにく雨となりましたが、案内板



雨の中のゴミ収集

地域を結ぶ へんろ文化

てんやわんや王国オリジナルの道標設置



工の岡村さんのご協力ですばらしい休憩所が完成しました。また外壁には、井上潤さんが雰囲気のある素晴らしい絵と文章を描き、さらに休憩所を引き立てるものとなりました。

火曜日はへんろ道の日

「道標」の設置、ごみ収集、危険箇所などの整備作業を実施し、完全ではないですがへんろ道としての機能を充分果せるものとなりました。

旧へんろ道が整備されると「お遍路さんが一寸休める所がほしいなあ」ということで休憩所を作ることとなりました。大統領の話に地元の方から全面的に協力いただくこととなりました。「土地と倉庫を自由に使ってください」と言うことで、早速、火薬保管庫として使われていた頑丈な鉄板の扉のついた倉庫のブロックを壊し二面に調達したアルミサッシを取り付けました。床も張り替え、屋根や外壁もペンキを塗り、窓枠の造作については、大



お馴染みのへんろ道保存協会のしるべも設置

休憩所を作ったのだから今度は、トイレを作ろう」ということになり作業を開始。休憩所の上に簡易な手作りトイレが完成。どうにか安心して休んで頂く所ができました。

これらの作業は、しらうおまつり（1月28日）が終って一段落付いた2月から本格的に開始。主に火曜日に行いました。火曜日は大統領の店が休みだからです。「今日、空いてるか？」の電話で、へんろ道御三家の宮家さん、柏本さん、大野さんらも駆けつけ「てんやわんや」しながらの作業は、歩き遍路さんから「ありがとう」の言葉や劳いの声を掛けて頂き充実したものとなりました。

初めてのお披露目

平成19年3月3日、津島やすらぎの里

において「今こそ世界遺産に、四国へんろみち」のテーマで市民大学講演会が開催され、終了後希望者に復元したへんろ道を歩いてもらうこととなりました。嬉しい事に講演会に参加した人の大多数が完歩。評判はよく、「素晴らしい道ですね、有難うございました。」の言葉を多くの方から掛けられ成功のお披露目となりました。

旧へんろ道の復元には、多くの協力がありました。津島ライオンズクラブには、松尾トンネル入口に立派な案内板を設置していただき、土地・倉庫を提供していただいた地権者方、清掃活動に汗を流したすみれ会、船田運送は、収集した不法投棄物の処理場を提供していただき、路面整備にも進んで協力いただきました。

地域の人々に親しまれ、お遍路さん達にも愛され利用されてきたであろう旧へんろ道の復元は、先人の苦勞と汗を蘇えらせ、時間を超えて会話が始まりました。地域の一人ひとりの「お接待の心」が点となり繋がりととなり、失ってきた「道の文化」を地域の人々と取り戻すことができました。これから始まるであろう「歩き遍路さん」との交流を楽しみに、ゆつくりゆつくり休みなく自分自身の修行のためにへんろ道の維持活動に励んでいきたいと思っています。